



<来週の資金需給予想とイベント予定>

(単位：億円)

日付	資金需給予想			主な要因	オペ期日	オペスタート	イベント
	銀行券要因	財政等要因	資金過不足				
8/5 (月)	+ 500	+ 5,900	+ 6,400	国庫短期証券発行償還 (3M)	CP等買入 ▲ 500 国債補完供給 + 26,000		日：日銀金融政策決定会合議事要旨 (6月13・14日分) 欧：ユーロ圏 PPI (6月)
8/6 (火)	トン	トン	トン				米：貿易収支 (6月)
8/7 (水)	トン	▲ 26,000	▲ 26,000	国債発行 (10年)	共通担保 ▲ 8,000		日：外国為替平衡操作の実施状況 (4月～6月) ：景気先行CI指数 (6月)
8/8 (木)	▲ 1,000	トン	▲ 1,000				日：金融政策決定会合における主な意見 (7月30・31日分) ：貿易収支 (6月) 米：新規失業保険申請件数 (8月3日終了週)
8/9 (金)	▲ 1,000	▲ 9,000	▲ 10,000	国債発行 (30年)			

<インターバンク>

日銀当座預金残高は週初、前営業日対比400億円増加の548兆300億円から始まった。その後、国債買入オペ、税・保険揚げ等の要因により増減し、2日には542兆900億円（速報）で越週した。

無担保コールON物加重平均金利は週初、0.077%から始まり、31日までは横ばい圏で推移した。31日の金融政策決定会合で政策金利の0.25%程度への引き上げが決定し、8月1日には同金利は0.227%に大幅上昇した。3日積みとなる2日もビットサイドの資金調達ニーズは底堅く同金利は0.227%（速報）となった。

ターム物は1W～1M物を中心に、決定会合前0.078%～0.25%、決定会合後0.228%～0.350%のレンジで取引された。

来週の予定としては、日本では8日に金融政策決定会合における主な意見（7月30・31日分）の公表、海外では6日に米貿易収支（6月）の公表などが挙げられる。

[無担保コールレート]

	予想レンジ (%)
O/N	0.22 ~ 0.228
1M	0.30 ~ 0.45
2M	0.30 ~ 0.45
3M	0.30 ~ 0.45
6M	0.45 ~ 0.65

<レポ>

足許GCIは週初+0.07%を中心に取引されたが後場には+0.02%近辺まで低下した。取引が月末越えとなる30日は-0.03%～+0.02%のレンジで出合い。金融政策決定会合の2日目となる31日は前場は0.10%近辺、後場に+0.15%～+0.20%で出合いが見られた。輪番オペがオフアされた2日は後場に+0.05%を下回る水準まで低下した。

SC取引は2年450～462回債、5年149～170回債、10年350～375回債、20年180～189回債、30年65～83回債、40年13～17回債などに引合いが多く見られた。

<CP>

今週の入札発行総額は約1兆8,500億円で、週間償還額の2兆3,500億円を下回った。発行残高は、先週末時点の25兆2,975億円から8月1日時点で24兆2,227億円に減少した。発行市場は食料品、不動産、鉄鋼業、卸売業などで大型の発行案件が見られた。入札案件の発行レートは銘柄や期間等によりばらつきが見られ、金融政策決定会合前は、政策変更の警戒感からレート目線が上昇し1M物から3M物で0.20%近辺から0.35%近辺での出合い、これ以降は、政策金利が下限となり、0.25%以上から0.35%近辺での出合いとなった。

来週の償還額は、1兆200億円となっている。発行市場は、企業の長期連休前の資金調達ニーズから活況なマーケットと予想される。発行レートは、引続き政策金利が下限となり、1Mでは0.25%以上での出合い、3M超の案件についてはレートを探る展開が予想され0.3%台から0.4%台で落ち着きどころ探るとみられる。

<TDB>

2日の3M（1247回債）の入札は、最高落札利回り0.1309%（前回債0.0641%）、平均落札利回り0.1210%（前回債0.0565%）となった。来週の入札は、8日に6M、9日に3Mが予定されている。

本資料は投資環境等に関する情報提供を目的として作成したものです。本資料は投資勧誘を目的とするものではありません。有価証券等の取引には、リスクが伴います。投資についての最終決定は、投資家ご自身の判断と責任においてなされるようお願いいたします。当社は、いかなる投資の妥当性についても保証するものではありません。記載された意見や予測等は作成時点のものであり、正確性、完全性を保証するものではなく、今後予告なく変更されることがあります。